

## 革新的燃焼技術推進委員会（第2回）議事要旨

1. 日 時 平成26年10月27日（月）16:00～18:00

2. 場 所 中央合同庁舎8号館6階623会議室

3. 出席者：

<総合科学技術・イノベーション会議>

久間 和生 総合科学技術・イノベーション会議議員

杉山 雅則 プログラムディレクター

<外部有識者>

大津 啓司 自動車用内燃機関技術研究組合 理事長

越 光男 大学評価・学位授与機構研究開発部 特任教授

佐藤 順一 日本工学会 会長

野波 健蔵 千葉大学大学院工学研究科 特別教授

古野 志健男 日本自動車部品総合研究所 専務取締役

<リーダー大学幹部>

深澤 良彰 早稲田大学 理事

真壁 利明 慶應義塾 常任理事

松原 英一郎 京都大学 産官学連携本部 副本部長

松本 洋一郎 東京大学 理事・副学長

<関係省庁>

松尾 浩道 文部科学省 研究開発局環境エネルギー課 課長

吉田 健一郎 経済産業省 製造産業局自動車課 室長

<管理法人>

古賀 明嗣 科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部 部長

<事務局>

山岸 秀之 内閣府 科学技術・イノベーション担当 大臣官房審議官

西尾 匡弘 内閣府 科学技術・イノベーション担当 ディレクター

4. 議題

1. （公開）選考の経緯及び採択結果について
2. （公開）SIP 革新的燃焼技術関連アクションプラン特定施策について
3. （公開）今後のスケジュールについて
4. （非公開）プログラムの推進に係る課題等について

5. 配付資料

資料1-1 SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「革新的燃焼技術」における選考の経緯及び採択結果について

資料2-1 平成27年度科学技術重要施策アクションプラン対象施策の特定について（案）  
<第4回総合科学技術・イノベーション会議（平成26年9月19日）資料より抜粋>

資料3-1 今後のスケジュール

資料4-1 欧州自動車産業における産学連携体制の現状について（非公開）

## 6. 議事要旨

### 1. 選考の経緯及び採択結果について

- 資料 1-1 に基づき、選考の経緯及び採択結果等に科学技術振興機構より説明。
- 以下の通りコメントがあった。

(杉山 PD)

- 大学の先生にチームを組んでもらったことが特徴と考えている。短期間の公募だったため心配していたが、想像以上にきちんと対応していただいた。リーダー大学はじめ、プレイヤーに敬意を表したい。期待している。  
革新的要素技術については、取り組みにさらなる拡がりを持たせたい。プログラム会議等を活用して、新たな研究のアプローチを発掘していきたい。  
50%の達成のみならず、このプログラムを成功事例にして、他の産業界に広げる雛形としていきたい。

(越 特任教授)

- プログラム会議でも関連なディスカッションがあった。今後が楽しみ。  
産学連携体制の構築には、まだ不安な面もあるので、ウォッチしていきたい。  
専門である化学の分野から見て、燃焼技術はまだ可能性があると考えている。例えば、燃料からのアプローチから、など。

(野波 特別教授)

- 評価のプロセスでは、辛口のコメントをつけたが、その要望に沿ってチームを作ってくれた。あとはやるだけ。  
産学連携のレベルを欧米並みに引き上げていただきたい。現状はうまくいっていないと感じている。本テーマの中でよいものを作っていただきたいと思う。期待している。

(杉山 PD)

- 皆様のコメントに同意。産学連携について、特にドイツは大学からの起業家が多いが、これを目指すのは、日本ではなかなか難しいと感じている。  
テーマの推進にあたっては、あまり産業界が表に立ちすぎてはいけなさと考えている。  
黒子としての活躍を続けていただきたい。それがひとつの出口になると思っている。

(古野 専務取締役)

- 産学官が一堂に介して、燃焼技術に取り組むのは画期的と感じている。  
産学連携については、日本独自のスタイルを構築していくことが大事だと思う。  
この取り組みは、日本の工学離れを食い止めるという点でも重要。  
産学連携のためには、学識界側の連携も大事だと思う。

### 2. SIP 革新的燃焼技術関連アクションプラン特定施策について

- 資料 2-1 に基づき、SIP 革新的燃焼技術と経産省施策「クリーンディーゼルエンジン技術の高度化に関する研究開発」との連携について、事務局より説明。
- 以下の通りコメントがあった。

(杉山 PD)

- ディーゼルエンジンの研究開発は非常に重要。後処理技術の向上がなければ製品として世に出ていくことはないの、そういった意味で、経産省施策「クリーンディーゼルエンジン技術の高度化に関する研究開発」を特定した。

### 3. 今後のスケジュールについて

- 資料 3-1 を基に、今後のスケジュールについて事務局より説明。

- 以下の通りコメントがあった。

(杉山 PD)

- 11月下旬から1月上旬にかけて、リーダー大学を中心にサイトビジットをしていきたい。現地現物を見て、議論をしていきたい。

#### 4. プログラムの推進に係る課題等について（非公開）

#### 5. その他

- 以下の通りコメントがあった。

(杉山 PD)

- 皆様のご意見を聞いて、ファイトが湧いた。

4つのチームを構築したのがポイントであり、チーム間の連携など、今後はマネジメントをいかにするかが重要だと思う。

燃効率の50%を達成だけでは、皆さんの期待の3割くらいしか満たしたことになるのだと実感した。残り7割の産学連携体制を構築するという部分についても、力を入れていきたい。

(久間 議員)

- 日本が負けられない部分を省庁連携でいかに強くするのか、その観点でテーマを選んだ。10戦10勝を目指してほしい。

構造材やパワエレなど、重要なのに大学で脚光を浴びていない研究の再興を推進してほしいと思っている。

産のニーズと国のファンディングをマッチさせたという意味で、非常によいテーマだと感じている。

大学の拠点化は重要で、加えて、プレイヤーのモチベーションをどのように高めるかがポイントだと思う。

ドイツには長い産学連携の歴史がある。このテーマは、日本に新たな歴史を作る第一歩と思って、頑張してほしい。

以上